

鶴龜

一名
月宮殿

季は	地は	ワキ	シテ
正月	唐土	大臣	皇帝
		ツレ (謡なし)	亀

シテサシ

「夫青陽の春になれば。四季の節会の事はじめ。

地 「不老門にて日月の。ひかりを天子の叡覽にて。

シテ 「百官卿相に至るまで。袖をつらね踵をついで。

地 「其数一億百余入。

シテ 「拝をすゝむる万戸の声。

地 「一同に拝する其音は。

シテ 「天に響きて。

地 「おびたゝし。

歌 「庭の砂は金銀の。く。玉をつらねて敷妙の。

五百重の錦や瑠璃の局。碑碣の行桁瑪瑙の橋。池の汀の鶴亀は。蓬萊山もよそならず。君のめぐみぞ有難き。く。

ワキ詞

「いかに奏聞申すべき事の候。毎年の嘉例の如く。

鶴亀を舞はせられ。其後月宮殿にて舞楽を奏せられうづるにて候。

シテ詞

「ともかくもはからひ候へ。

地
「亀は万年の齢を経。鶴も千代をやかさぬらん。

(中の舞)

歌
「千代のためしの数々に。く。何を引かまし姫小
松の。緑の亀も舞ひ遊べば。丹頂の鶴も一千年の。
齢を君に授け奉り。庭上に参向申しければ。君も
御感の余りにや。舞樂を奏して舞ひ給ふ。 (樂)

歌
「月宮殿の白衣の袂。月宮殿の白衣の袂の。色々妙
なる花の袖。秋は時雨の紅葉の羽袖。冬はさえ行
く雪の袂を。翩へす衣も薄紫の。雲の上人の舞楽
の声々に。霓裳羽衣の曲をなせば。山河草木国土
ゆたかに。千代万代と舞ひ給へば。官人駕輿丁御
輿を早め。君の齢も長生殿に。く。還御なる
こそめでたけれ。